

研究の概要

20 25 年 11 月 11 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	当院の胚移送の現状と今後の課題
代表研究者 (所属・氏名)：	IVFなんばクリニック 柴田 美智子
研究の目的：	胚移送は凍結胚を施設間で移動させる事で転院後も治療を継続できる重要な仕組みとなっている。その一方で輸送中の安全性や実務の標準化など課題も多く、移送後の成績については不明点が多い。今回は当院の移送システムの現状と転院後の予後を追跡したので報告する。
調査データ該当期間：	20 16 年 5 月 1 日 ~ 20 25 年 6 月 30 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	2016年5月から2025年6月までに当院が他院より受け入れた胚移送148件を対象とし、移動距離凍結デバイスの種類による生存率の差異を検討した。距離については当院所在大阪の為、府内と府外に分けて検討した。デバイスについては当院で採用しているCryotopとそれ以外に分けて検討した。また、実際に胚移植を行った症例について妊娠転記を調査した。
個人情報の取り扱い：	患者試料を分析する際には、連結可能匿名化をする。また試料の分析から得られる情報についても、厳重な管理とセキュリティ体制の整備を徹底し、連結可能匿名化を行い、符号のみで取扱うので、個人情報は公開されない。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6978-8824 生殖技術部門・柴田 美智子
備考	